

## ウィッグ(かつら)の選び方

### 【ウィッグ(かつら)の購入方法 ー試着して購入するようにしましょう】

一般的にウィッグ(かつら)は専門メーカーやファッション雑貨店、通信販売などで購入することができます。購入する際は、直接質感を確かめたり、試着したりすることが大切です。例えば洋服を購入する時に、見た目で気に入っても、試着をすると「似合わなかった」、「サイズが合わなかった」という経験があることと思います。同様に、ウィッグも見た目と試着をするのでは、イメージが異なる場合があります。また、サイズが表示されていても、人の頭の形は様々ですので、部分的にサイズが合わないこともあります。ウィッグを購入する場合は、できる限り試着をして購入するようにしてください。

### 【ウィッグ(かつら)の種類 ー医療用ウィッグとおしゃれ用ウィッグ】



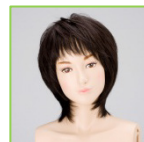
ウィッグには「医療用」と「おしゃれ用」とがあります。見た目は同じようなのに、「何が違うの?」と疑問に思われることでしょう。簡単にお伝えします。

#### 医療用

頭皮に直接当たることを前提に製作されています。  
裏側の素材が頭皮にやさしく、通気性が良いなど、頭皮に負担が少ないように考慮されています。  
おしゃれのバリエーションを得ようとすると、コスト高になる場合があります。

#### おしゃれ用

髪の毛があることを前提に製作されています。  
ウィッグ(かつら)の髪の毛の量が少なかったり、もみ上げや襟足の所が短かったりすると、頭皮全体をカバーできないこともあります。  
ウィッグの裏側の素材が「医療用」ほどは、考慮されていないことがあります。  
おしゃれのバリエーションを気軽に楽しめます。



## 【ウィッグ (かつら) の作り方の違いと特徴】

ウィッグ (かつら) には既製品、セミオーダー品、フルオーダー品があります。値段や品質、手元に届く時間などに違いがあります。まず、それぞれの特徴を知りましょう (詳しくは、各販売店で確認しましょう)。

### 既製品

スタイルがある程度決まっているので、自分に合うスタイルを選びます。サイズの調整できるものとできないものがあります。比較的安価なものからあります。購入した日から使うことができます。

### セミオーダー品

スタイルや毛質など、いくつかの選択肢の中から選ぶことができます。メーカーによってシステムや納期が違うので、前もって確認が必要です。フルオーダー品に比べると安価で、フルオーダー品に近い満足感が得られます。

### フルオーダー品

頭の型どりをして、スタイルや色、毛質などを自由に選べ、希望通りのヘアスタイルを目指すことができます。

自分の頭の型をとって合わせるので、フィット感があります。

価格は高めです。

手元に届くまでおよそ1~3か月かかるので、作る時期を考慮しましょう。

あまり髪型を変えたくない

仕事の時  
だけ使おう

○日までに  
ほしいな



## 【毛質の違いと特徴】

ウィッグ(かつら)の毛質には人工毛(合成繊維)、混合毛、人毛があります。それぞれの特徴を把握して選びましょう。

### 人工毛(合成繊維)

アクリル系またはポリエステル、ポリアミドなどで作られていて、人毛よりも軽くできています。

素材によっては耐熱性のももありますが、摩擦や静電気に弱いので、後からパーマやカラーの変更はできません。また、てかり感があります。

### 混合毛

人毛と人工毛(合成繊維)をミックスして作られており、形はくずれにくいですが、後からパーマやカラーの変更はできません。

また、人毛部分が色あせすることがあります。

### 人毛

特殊加工した人の毛髪です。ドライヤーでセットしたり、パーマやカラーを変更したりすることもできます。

自然な質感を楽しめますが、色あせや枝毛などのダメージを受けることがあります。色あせにはカラーを施せますが、回数には限度があります。

人工毛(合成繊維)	人毛
○軽い △摩擦、静電気に弱い △熱に弱い素材もある △後からパーマやカラーの変更はできない	○自然な質感 ○後からパーマやカラーの変更ができる △色あせや枝毛になる △においがつきやすい

## 【その他のポイント】

### 価格を検討する

ウィッグ(かつら)の価格は、作り方や毛質などによって異なります。数千円のものから数十万円のものまでさまざまです。

自分にとってどのようなものが良いか、よく検討しましょう。

**【ウィッグ(かつら)の価格について】** 専門メーカー店と量販店  
ウィッグ(かつら)はそのまま使うこともできますが、自分に似合うようにカット(スタイリング)して使うことが一般的です。

#### 専門メーカー

安価とされる既製品でも  
万単位の費用がかかる。

カット(スタイリング)料金が  
含まれている。

#### 量販店など

数千円から購入できる。

カット(スタイリング)料金は  
別途必要になる。

### 【医療用ウィッグ(かつら)購入支援について】

現在(2023年11月)、ウィッグ(かつら)は医療費控除の対象ではありません。

ただし、医療用ウィッグ(かつら)購入費の助成制度を設けている自治体があります。助成対象、金額、申請方法などは自治体で異なりますので、詳細はお住まいの自治体にお問い合わせください。



## サイズが調整できるか

頭の大きさは、髪の毛がある時とない時では1~2cmほど変わります。毛の量が増え、頭の大きさも変わっていくので、購入する時は考慮しなければなりません。

サイズが調整できるウィッグ(かつら)を準備すると安心でしょう。

## 使う時期はどうか

治療時期により、ウィッグ(かつら)をつけると蒸れることもあります。特に暑い夏場は裏側のネットが通気性の良いものを選んだり、付け毛をつけた帽子をかぶったりするとよいでしょう。

## 裏の構造はどうか

ウィッグ(かつら)の裏の構造によっては、かぶっているとかゆみを感じたり、チクチクしたりします。裏の構造についても確認しましょう。



人工皮膚つき。  
目が細かくてやわらかい。



人工皮膚はついていない。  
目が細かくてやわらかい。

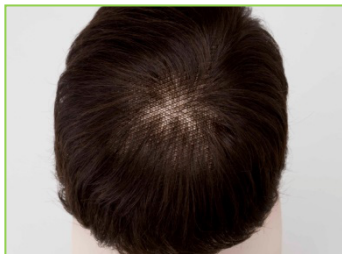


目が粗くてかたい。  
間から毛が入り込み、  
刺激になることもある。

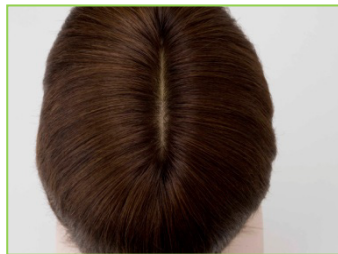
## 分け目はどうなっているか

分け目がネットの場合、座った状態などで上から見られるとネットが透けてウィッグ(かつら)だとわかってしまうことがあります。また、上からの視線が気になるという方もたくさんいらっしゃいます。

地肌のように見える人工皮膚のものもありますので、販売店で確認してください。



ネット



人工皮膚

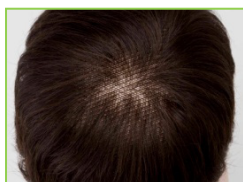
## 別売りのネット類を活用する

ウィッグ(かつら)の下にかぶるネットの種類には、フィット感を良くするもの、汗の吸収を良くするもの、ウィッグの分け目部分を隠すものなどがあります。ウィッグのつけ心地を良くするためにも、必要に応じてネット類を上手に活用しましょう(ネット類の種類は販売店によって異なりますので、用途については販売店で確認してください)。

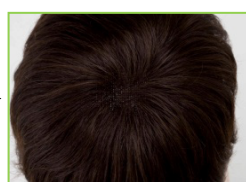
なお、ネットを着用していると、ウィッグがずれた時に気づかないことがあります。また、厚手の素材になると、暑いだけでなく、シルエットにも影響がありますので、注意しましょう。



例: 分け目部分を  
隠すネット



ネット着用前



ネット着用後

## 【 男性がウィッグ (かつら) を選ぶとき 】

髪の毛を短くしている男性がウィッグ (かつら) を選ぶ時に気をつけていただきたいことは、もみあげや襟足の状態をどの程度表現できるか、髪の毛の量の調節はどの程度できるかという点です。

ウィッグになったらいきなり長髪になったということでは、違和感が強くなってしまいます。

一般的に既製品の場合では短くカットしても、もみあげや襟足などの調整は難しいのが現状です。

短い髪型の  
ウィッグもある  
のかな。



ウィッグと帽子は  
どっちがいいかな。

